

## **私はだれのもの？**

コリント人への手紙第一 6章 12-20節

### **はじめに**

今日の聖書箇所で、パウロは「**不品行を避けなさい**」(18節)とっています。ここでの不品行というのは、ギリシヤ語の「ポルネイア」という言葉で、おそらく「ポルノ」という言葉の語源となった言葉ではないかと思えます。つまり不品行とは、性的な罪です。

コリント教会には、性的な罪を犯している教会員がいました。教会の外の人にも見られないほどの性的な罪、父の妻を妻にしている教会員がいました。しかし、その他にも性的な罪を犯している教会員が何人もいたようです。具体的には、遊女と交わるという罪です。いわゆる「買春」(ばいしゅん・かいしゅん)であって、お金で女性を買い、性的な欲求を満たすという罪です。

コリントの町自体が、性的に非常に乱れた町として有名であったので、その影響が教会にも入り込んできたり、クリスチャンになっても古い罪の習慣から抜け出せない人がいたのかもしれない。

教会員の中にも性的な罪を犯している人がいる、そんなコリント教会に対してパウロは、「不品行を避けなさい」と言っているのです。

### **1. 特殊な罪としての「不品行」**

そもそもなぜ私たちは、性的な罪を避けなければならないのでしょうか？それは、性的な罪は、他のすべての罪とは違う特別な罪だからです。

18節には、「**人が犯す罪はすべて、からだの外のものです。しかし、不品行を行う者は、自分のからだに対して罪を犯すのです**」とあります。性的な罪は、自分のからだを深く傷つける罪です。なぜでしょうか？それは、16節に「**遊女と交われば、一つからだになることを知らないのですか。『ふたりは一体となる』と言われているからです**」とあるからです。性的な交わりは、相手と深く結びつき、相手と一つになることだからです。パウロは、「知らないのですか」と言っているように、私たちが意識するしないに関わらず、性的な交わりは相手と深く結びつけるものなのです。相手と深く結びつける分、神様に結び合わされた結婚関係にある相手以外の人との性的な交わりは、私たちのからだと心を深く傷つけるものとなるのです。

聖書は明らかに、私たちの生涯では、基本的にただ一人としか性的な交わりを持つことは許されていません。それは、神様に結び合わされた結婚関係にある相手だけです。もちろん、正当な理由で離婚し再婚した人や相手が死別して再婚した人などは別です。しかし、基本的に私たちには、一生のうちただ一人としか性的な交わりを持つことは許されていま

せん。

現代の日本においても、性的な乱れは激しいものがあります。若者の価値観は大きく影響を受けています。お互いが好きであれば性的な交わりを持ってよい、たとえ好きでなくても、性的な欲求を満たすために、交わりを持ってよい、そんな価値観が当たり前になってきています。婚前交渉は当たり前、むしろ婚前交渉の経験がない人が異常という価値観です。そのような若者の価値観を利用して、若者の性を商売にする大人たちも沢山います。

私たちは若者たちに、神様に結び合わされた結婚関係にある人以外の性的な交わりは罪であること、性的な罪は特別な罪であること、自分のからだを深く傷つける罪であることをしっかり教えていかなければなりません。性的な交わりは、神様に結び合わされた結婚関係にある人と持つ時にだけ、深い祝福を私たちに与えるものなのです。

## **2. イエス様を信じる者にとっての「からだ」**

私たちはなぜ性的な罪を避けなければならないのでしょうか？そのもう一つの理由は、私たちイエス様を信じるクリスチャンの「からだ」は、特別なものだからです。

### **(1) キリストのからだの一部**

15 節には、「**あなたがたのからだはキリストのからだの一部であることを知らないのですか**」とあります。私たちのからだは、キリストのからだの一部なのです。私たちがイエス様を信じた時から、私たちはイエス様と一つに結び合わされ、イエス様のからだの一部とされたのです。私たちの心や魂だけがキリストのからだの一部なのではありません。私たちのからだも、肉体もキリストのからだの一部なのです。ですから私たちは、心や魂、信仰や霊的なことだけを清く保つだけでなく、私たちのからだ、肉体も清く保たなければならないのです。

### **(2) 私たちのうちに住まれる聖霊の宮**

19 節には、「**あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮である**」とあります。イエス様を信じた時から、聖霊は私たちのうちにおられ、私たちを助け、導いてくださっています。しかし聖霊は、私たちの心の中だけにおられるわけではありません。私たちのからだのうちにおられるのです。だから心さえ清くあれば、からだは何しよ  
うが関係ないということではありません。聖霊は、私たちのからだに住まわれるのですから、私たちはからだも清く保たなければなりません。

### **(3) 代価を払って買い取られた**

19-20 節には、「**あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです**」とあります。私たちは、イエス様を信じた時か

ら、私たちのものではなくなりました。神様は、神様のひとりの子であるイエス様の命という尊い代価を払って、私たちを神様のものとされたのです。神様とイエス様は、犠牲を払って、私たちをご自身のものとされたのです。私たちは神様のものですから、自分の好きなように自分を扱う権利はありません。神様のものですから、神様の意志を尊重しなければならないのです。それは、私たちの心だけでなく、私たちのからだにおいても、です。神様とイエス様は、私たちの心だけを買っただけでなく、私たちのからだをも買い取られたのです。私たちの心もからだも、神様のものです。私たちの心も体も、神様のひとりの子の命という尊い価値があるのです。

#### (4)やがてよみがえる

14 節には、「**神は主をよみがえらせましたが、その御力によって私たちをもよみがえらせてくださいます**」とあります。イエス様を信じる私たちのからだは、イエス様が再び来られる世の終わりによみがえります。私たちのからだは、イエス様を信じた時に、イエス様と一つに結ばれました。私たちの心だけではありません。私たちのからだもイエス様と結ばれたのです。それは、肉体の死を経験しても切り離されることはありません。私たちのからだは、死んだ後も、墓の中でイエス様と一つに結ばれたまま休むのです。そしてイエス様が再び来られる世の終わりの時によみがえるのです。

私たちのからだは、イエス様と一つに結ばれて、やがてよみがえるからだです。ですからこのからだを大切に扱わなければなりません。私たちは葬儀の時にも、遺体を丁重に扱うのは、からだは、死んだ後も引き続きイエス様と結び合わされ、やがてよみがえるものだからです。

#### おわりに

私たちは、性的な罪を避けなければなりません。それは、私たちのからだや心を深く傷つけるものであるだけでなく、「キリストのからだ」「聖霊の宮」「イエス様と結ばれたやがてよみがえるからだ」を汚すことになるからです。

性的な罪に関しては、イエス様はこのように言われました。「**だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです**」(マタイ 5:27)。性的な罪は、実際に行わなくても心の中で情欲を抱けば、罪となるのです。それゆえ私たちは、実際に行わなくても心の中で性的な罪を犯し、心とからだを深く傷つけ、汚すことにもなるのです。私たちは、心の中の性的な罪をも避けなければなりません。

私たちは、どのようにその罪を避ければよいのでしょうか。パウロは、今日の聖書箇所でも何度も「知らないのですか」と言っています。私たちは、神様の恵みを忘れてしまいます。私たちは神様の恵みを何度も思い返すことによって、罪を避けることができるのです。

私たちのからだはキリストのからだの一部である、私たちのからだは聖霊の宮である、私たちのからだはイエス様の命という代価を払って買い取られた尊いものである、私たち

のからだは神様のものである、私たちのからだはイエス様と結び合わされてやがてよみがえるものである、私たちは罪の誘惑に負ける時、この恵みに何度も立ち返り、何度も悔い改めなければなりません。

しかし私たちは、性的な罪を避ければそれでよいではありません。20 節には、「**自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい**」とあります。

私たちのからだは、イエス様の命という代価を払って買い取られた神様のものです。聖霊が住まれる聖霊の宮です。私たちのからだは、自分のものではありません。自分の好きなように扱う権利はありません。私たちは、からだの管理を神様に任されているに過ぎません。私たちは、自分のからだでどのように神様の栄光を現わすことができるでしょうか？

聖書には、「**あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現わすためにしなさい**」(1 コリント 10:31)とあります。私たちのからだは、食べたり飲んだりすることによって保たれていきます。私たちは、神様の栄光を現わすような食生活をしているでしょうか？神様のものであるからだを、大切に扱うような食生活をしているでしょうか？栄養バランスを考えた食生活をしているでしょうか？お酒を飲む方もいると思いますが、適切な量で飲んでいるでしょうか？

12 節に「**すべてのことが私には許されたことです。しかし、すべてが益になるわけではありません。私にはすべてのことが許されています。しかし、私はどんなことにも支配されはしません**」とあります。私たちは基本的に、どんな物も感謝して食べたり飲んだりすることが許されています。しかし、二つの面で注意しなければなりません。一つはそれが益になるかどうか、もう一つはそれに支配されていないかということです。私たちは、それを食べたり飲んだりすることで誰かが躓いたり、自分の健康を損なうものであれば避けるべきです。また、それを食べなければ落ち着かない、それを飲まなければ生きていけないというほど自由を失い、それに支配されるのであれば避けるべきです。それはすでにあなたの偶像になっているからです。

食べたり飲んだりすることの他、私たちは自分のからだでどのように神様の栄光を現わすことができるでしょうか？適度な運動もからだを大切に扱うことです。歩いたり、走ったり、筋肉をつけることも、神様の栄光を現わすことになるのです。

また病気を適切に治療することも大切なことです。健康診断に行かなかったり、からだの不調であるにも拘らず病院に行かなかったりするのは、からだを大切に扱っていることにはなりません。過度な労働や過度な労働から来る睡眠不足も、からだを傷つけることです。

私たちは、信仰は心の問題で、からだのことは別のことと考えがちです。私たちイエス様を信じるクリスチャンにとって、からだは特別な意味を持ちます。イエス様を信じるこ

とによって、自分のからだに新しい価値を与えられるのです。決して軽んじるべきものではなく、からだでどのように神様の栄光を現わしていくかを考えていかなければなりません。信仰とからだは、深く結びついているものです。

私たちのからだは、神様のものです。神様に献げていかなければなりません。「**あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です**」(ローマ 12:1)。